

# 平成25年度 定期作況報告

(9月20日)

(畑作の部 気象概況訂正後)

地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
中央農業試験場

# 水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

## I 気象概況

8月下旬:平均気温は平年より1.0℃低く、降水量は平年の236%、日照時間は平年の80%であり、低温、多雨、寡照に経過した。

9月上旬:平均気温は平年より1.1℃低く、降水量は平年の85%、日照時間は平年の83%であり、低温、少雨、寡照に経過した。

9月中旬:平均気温は平年より0.4℃高く、降水量は平年の282%、日照時間は平年の84%であり、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月の平均では平均気温は平年より0.5℃低く、降水量は平年の184%、日照時間は平年の82%であり、多雨、寡照に経過した。

8月下旬～9月中旬気象表

項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.6	25.7	△ 1.1	23.1	25.0	△ 1.9	23.5	23.5	0.0	23.7	24.7	△ 1.0
最低気温(℃)	16.5	16.9	△ 0.4	15.6	16.0	△ 0.4	14.4	13.9	0.5	15.5	15.6	△ 0.1
平均気温(℃)	19.9	20.9	△ 1.0	19.0	20.1	△ 1.1	18.9	18.5	0.4	19.3	19.8	△ 0.5
降水量(mm)	103.5	43.9	59.6	55.0	64.9	△ 9.9	119.0	42.2	76.8	277.5	151.0	126.5
日照時間(hr)	49.2	61.8	△ 12.6	43.0	51.7	△ 8.7	47.7	57.0	△ 9.3	139.9	170.5	△ 30.6

注)データは「アメダス岩見沢」を使用し、平年値は平成15～24年の10ヶ年平均値。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

## II 作 況

5月20日 やや不良

事由:播種は平年並の4月18日に行った。播種日からやや低温に経過したため、出芽始めまでに日数を要し、播種後7日目に出芽揃となった。その後も平年を下回る気温および日照時間で経過したため、苗の生育は緩慢であった。移植はほぼ平年並の5月20日に行った。

移植時における苗は、茎数は「きらら397」、「ななつぼし」ともに平年並であった。葉数は「きらら397」が3.1枚、「ななつぼし」が2.8枚で、それぞれ平年に比べ0.2枚、0.4枚少なかった。草丈はそれぞれ9.7cm、9.4cmで平年比92%、89%と下回った。地上部乾物重はそれぞれ1.85g、1.80gで、平年比84%、79%であり、苗の充実度(地上部乾物重/草丈)はそれぞれ平年比91%、89%と、平年を下回った。すなわち、苗は平年に比べ葉数、草丈ともに少なく、乾物重、充実度も劣る、不十分な生育に留まった。

以上により、5月20日時点の作況は、やや不良である。

6月20日 やや良

事由:移植直後の5月5半旬が低温、寡照に経過したこと、その後は高温に経過したものの6月1日までの期間に風の強い日が多かったことから、平年に比べ活着にやや時間を要し、初期分けつの発生が遅れた。しかし、6月上・中旬は高温・多照に経過したことから、生育は回復し、さらに促進された。分けつの発生も旺盛となった。6月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ113%、122%と平年を上回り、主稈葉数はそれぞれ平年より0.8、0.7葉多かった。茎数もそれぞれ118%、101%と平年並から上回った。

以上により、6月20日時点の作況は、やや良である。

7月20日 平年並

事由:6月下旬は低温に経過したものの、7月上旬以降は高温、多照に推移したことから、幼穂形成期は、平年対比で「きらら397」が5日、「ななつぼし」が6日いずれも早く、止葉始は両品種ともに7日早かった。そのため、7月20日時点でいずれの品種も最高分けつ期、止葉期を過ぎており、茎数は、「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ103%、91%と平年並から下回り、止葉葉数も平年並からやや下回った。草丈は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ107%、108%と上回った。

以上により、7月20日時点の作況は、平年並である。

8月20日 平年並

事由:7月下旬はやや高温に推移し、出穂期は、平年対比で「きらら397」が8日、「ななつぼし」が7日いずれも早かった。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ98%、102%と平年並で、穂長は両品種とも103%とやや長かった。穂数は、平年対比で「きらら397」が110%、「ななつぼし」が98%と、平年並から上回った。

以上により、8月20日時点の作況は、平年並である。

9月20日 平年並

事由:8月下旬以降の気温は、ほぼ平年並で推移し、成熟期は、「きらら397」で9月18日、「ななつぼし」で9月12日と、平年に比べそれぞれ5日、8日早かった。一穂粒数は平年対比で「きらら397」が103%、「ななつぼし」は101%と平年並からやや上回った。㎡当たりの粒数は「きらら397」が114%と多く、「ななつぼし」は99%と平年並であった。稔実歩合は「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ平年より0.7、6.5ポイント高かったが、登熟歩合はそれぞれ12.2、2.2ポイント低かった。そのため、㎡当たり登熟粒数は「きらら397」で平年の97%、「ななつぼし」で96%と、平年をやや下回った。

以上により、9月20日時点の作況は、平年並である。

項目	品種名・ 苗種 年次	きらら397 中苗			ななつぼし 中苗			ゆめびりか 中苗(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年 (前4ヶ年)	比較	
播種期	(月.日)	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0
移植期	(月.日)	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.20	0
幼穂形成期	(月.日)	7.02	7.07	△ 5	6.29	7.05	△ 6	6.30	7.05	△ 5
止葉始	(月.日)	7.14	7.21	△ 7	7.11	7.18	△ 7	7.12	7.17	△ 5
出穂期	(月.日)	7.26	8.03	△ 8	7.25	8.01	△ 7	7.24	7.31	△ 7
成熟期	(月.日)	9.18	9.23	△ 5	9.12	9.20	△ 8	9.14	9.18	△ 4
穂揃日数	(日)	6.0	5.8	0.2	6.0	6.2	△ 0.2	6.0	6.5	△ 0.5
登熟日数	(日)	54	51	3	49	50	△ 1	52	49	3
生育日数	(日)	153	158	△ 5	147	155	△ 8	149	153	△ 4
移植時地上部乾物重(g/100本)		1.85	2.19	△ 0.34	1.80	2.27	△ 0.47	1.84	2.19	△ 0.35
草丈 (cm)	移植時	9.7	10.5	△ 0.8	9.4	10.6	△ 1.2	10.2	10.6	△ 0.4
	6月20日	27.1	23.9	3.2	29.8	24.5	5.3	30.9	26.2	4.7
	7月20日	65.1	60.7	4.4	71.7	66.3	5.4	74.8	68.3	6.5
茎数 (移植時:本/個体 その他:本/m <sup>2</sup> )	移植時	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0
	6月20日	340	288	52	295	292	3	355	322	33
	7月20日	805	782	23	733	808	△ 75	853	833	20
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.1	3.3	△ 0.2	2.8	3.2	△ 0.4	3.0	3.2	△ 0.2
	6月20日	7.5	6.7	0.8	7.3	6.6	0.7	7.7	7.0	0.7
	7月20日	11.0	10.6	0.4	10.2	10.2	0.0	10.4	10.7	△ 0.3
	止葉	11.0	11.0	0.0	10.2	10.4	△ 0.2	10.4	10.8	△ 0.4
稈長	(cm)	64.4	65.4	△ 1.0	71.8	70.2	1.6	69.3	68.6	0.7
穂長	(cm)	17.0	16.5	0.5	17.0	16.5	0.5	17.4	17.1	0.3
穂数	(本/m <sup>2</sup> )	738	668	70	703	716	△ 13	798	718	80
一穂粒数	(粒)	49.8	48.2	1.6	54.8	54.3	0.5	49.8	43.8	6.0
m <sup>2</sup> 当粒数	(百粒)	368	322	46	385	389	△ 4	397	314	83
稔実歩合	(%)	90.2	89.5	0.7	92.8	85.9	6.9	88.7	91.0	△ 2.3
登熟歩合	(%)	69.0	81.2	△ 12.2	75.6	77.8	△ 2.2	67.0	82.3	△ 15.3
籾摺歩合	(%)		76.3			76.4			76.1	
屑米歩合	(%)		7.3			7.5			6.7	
千粒重	(g)		22.9			21.8			22.7	
わら重	(kg/a)		62.0			69.9			63.2	
精籾重	(kg/a)		75.2			77.1			72.8	
精玄米重	(kg/a)		57.4			58.9			55.4	
収量平年対比	(%)		100			100			100	
検査等級			2上			2上			2上	

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ななつぼし」の平年値は前7ヶ年中、平成23年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成21年より「ゆめびりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)「ほしのゆめ」(中苗紙筒)の調査は、平成24年で中止した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱 栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m<sup>2</sup> 4本植え

移植方法 : 手植え 反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m<sup>2</sup>、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

# 畑作の部

平成25年9月作況  
(赤字下線が訂正部分)

作物G(長沼町)

## I 気象概況

8月下旬:平均気温は平年より1.2℃低く、降水量は平年の198%、日照時間は平年の69%であり、低温、雨、寡照に経過した。

9月上旬:平均気温は平年より1.1℃低く、降水量は平年の60%、日照時間は平年の77%であり、低温、雨、寡照に経過した。

9月中旬:平均気温は平年より0.2℃高く、降水量は平年の343%、日照時間は平年の77%であり、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.7℃低く、降水量は平年の172%、日照時間は平年の74%で、多雨、寡照に経過した。

項目 \ 時期	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	24.6	25.5	△0.9	23.0	24.8	△1.8	23.3	23.4	△0.1	23.7	24.6	△0.9
最低気温(℃)	15.4	16.2	△0.8	15.1	15.4	△0.3	13.1	13.1	0.0	14.6	14.9	△0.3
平均気温(℃)	19.3	20.5	△1.2	18.6	19.7	△1.1	18.1	17.9	0.2	18.7	19.4	△0.7
降水量(mm)	88.5	44.7	43.8	44.0	72.8	△28.8	140.0	40.8	99.2	272.5	158.3	114.2
降水日数(日)	8.0	2.2	5.8	5.0	1.9	3.1	4.0	2.2	1.8	17.0	6.3	10.7
日照時間(hr)	<u>39.7</u>	<u>57.4</u>	<u>△17.7</u>	<u>38.6</u>	<u>50.3</u>	<u>△11.7</u>	<u>41.4</u>	<u>53.5</u>	<u>△12.1</u>	<u>119.7</u>	<u>161.2</u>	<u>△41.5</u>

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) 降水日数は、24時間降水量が0.5mm以上をカウント

注5) △は減を示す。

## 1. 秋まき小麦(平成25年播種)

平成25年9月20日作況：平年並

事由：播種期は9月19日で平年より1日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

項目 \ 年次	品種名	きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(H25.月.日)	9.19	9.18	1
出芽期	(H25.月.日)		9.27	
出穂期	(H26.月.日)		6.7	
成熟期	(H26.月.日)		7.20	
冬損程度	(0:無～5:甚)		1.0	
草丈 (cm)	H25.10.20		17.0	
	H26.5.20		46.0	
	H26.6.20		100.0	
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	H25.10.20		589	
	越冬前(11月)		1165	
	越冬後(4月)		1816	
	H26.5.20		1333	
	H26.6.20		792	
成熟期における	稈長 (cm)		90.0	
	穂長 (cm)		9.0	
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )		723	
倒伏程度	(0:無～5:甚)		1.0	
子実重	(kg/10a)		729	
容積重	(g/l)		804	
千粒重	(g)		38.0	
品質	(等級)		2等	
子実重平年対比	(%)		100	

注1) 平年値:前7か年中、平成25年(最凶)、平成19年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)。

注2) △は平年より早、短、少を表す。

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

## 2. 大豆

6月20日 平年並

事由：播種期は平年と同日の5月22日であり、出芽期も平年と同日であった。主茎長が平年よりやや長く、主茎節数は概ね平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である

7月20日 平年並

事由：「トヨムスメ」の開花期は平年並であった。分枝数は平年並からやや多いが、主茎長は平年よりやや短く、主茎節数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日 やや良

事由：「スズマル」の開花期は平年より2日早かった。主茎長は平年よりやや短い、主茎節数は平年並で分枝数は平年よりやや多く、着莢数は平年比107～111%と多かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日 やや良

事由：主茎長は平年より短い、主茎節数は平年並で分枝数は平年より多く、着莢数は平年比115～116%と多かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名 項目 \ 年次		トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.03	6.03	0	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.14	7.15	△ 1	7.21	7.23	△ 2
成熟期	(月.日)		9.27			9.29	
主茎長 (cm)	6月20日	13.3	11.8	1.5	9.9	8.4	1.5
	7月20日	45.2	50.6	△ 5.4	34.7	41.5	△ 6.8
	8月20日	49.1	58.3	△ 9.2	57.7	63.0	△ 5.3
	9月20日	49.9	57.9	△ 8.0	58.6	63.7	△ 5.1
	成熟期		57.6			64.6	
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.1	0.2	3.6	3.3	0.3
	7月20日	9.3	9.7	△ 0.4	11.4	11.7	△ 0.3
	8月20日	9.7	10.0	△ 0.3	13.6	14.2	△ 0.6
	9月20日	9.7	10.0	△ 0.3	14.0	13.7	0.3
	成熟期		10.0			14.0	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	6.0	1.2	8.2	8.7	△ 0.5
	8月20日	8.0	6.6	1.4	12.1	11.0	1.1
	9月20日	8.1	6.3	1.8	12.0	10.4	
	成熟期		6.0			10.0	△ 10.0
着莢数 (莢/株)	8月20日	73.8	66.3	7.5	148.4	138.5	9.9
	9月20日	71.4	61.4	10.0	143.4	124.3	19.1
	成熟期		61.1			124.0	
一莢内粒数			1.79		2.42		
子実重 (kg/10a)			372		345		
百粒重 (g)			41.1		15.0		
屑粒率 (%)			2.4		1.6		
品質 (等級)			3中		2中		
子実重平年対比 (%)			100		100		

注) 平年値は前7カ年中、平成21年(最凶)、20年(最豊)を除く5カ年平均。

### 3. 小豆

6月20日作況 平年並

事由：播種期は平年より3日遅い5月28日であったが、その後、好天に恵まれたため、出芽期は平年より1日遅い6月12日であった。現在のところ、主茎長が平年並であり、主茎節数はやや多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月下旬以降の降雨は少なく、7月に入り夏日が続き、干ばつ気味に推移した。このため、主茎長は平年を下回ったが、開花期が平年より1日早い7月22日であり、主茎節数と分枝数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：不良

事由：主茎節数が平年よりやや多いものの、主茎長は平年を下回り、分枝数も少なく、個体全体としての生育量が少ない。上位節の莢が少なく、着莢数は平年を大きく下回っている。

以上により、現在の作況は不良である。

9月20日作況：不良

事由：成熟期は平年より2日早い9月2日であった。成熟期における主茎長は平年より短く、主茎節数がやや多く、分枝数は少なかった。着莢数が平年を大きく下回り、一莢内粒数も平年より少ない。

以上により、現在の作況は不良である。



品種名		エリモシヨウズ		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.28	5.25	3
出芽期	(月.日)	6.12	6.11	1
開花期	(月.日)	7.22	7.23	△ 1
成熟期	(月.日)	9.02	9.04	△ 2
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	3.7	0.1
	7月20日	21.3	24.3	△ 3.0
	8月20日	49.7	65.4	△ 15.7
	成熟期	49.2	65.0	△ 15.8
主茎節数 (節)	6月20日	1.9	1.5	0.4
	7月20日	9.2	9.3	△ 0.1
	8月20日	14.4	13.4	1.0
	成熟期	14.2	13.4	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	4.5	4.4	0.1
	8月20日	4.0	4.6	△ 0.6
	成熟期	3.8	4.5	△ 0.7
着莢数 (莢/株)	8月20日	31.5	55.6	△ 24.1
	成熟期	33.0	53.9	△ 20.9
一莢内粒数		5.44	5.94	△ 0.50
子実重	(kg/10a)		291	
百粒重	(g)		12.4	
屑粒率	(%)		2.9	
品質	(等級)		3下	
子実重平年対比	(%)		100	

注1) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。

#### 4. ばれいしょ

5月20日作況：やや不良

事由：本年の融雪剤無散布圃場の根雪終は平年より6日遅い4月11日であったが、平年より少雨であったことから植付期は平年より5日早い4月24日であった。植付け後、4月下旬から5月中旬は低温で推移したため、萌芽の遅延が予想される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

6月20日作況：やや不良

事由：萌芽期は平年より8日遅い5月30日となった。5月下旬から高温で推移したため生育はほぼ回復したが、茎長はやや短く、開花始も遅れが予想される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日作況：平年並

事由：開花始は平年より4日遅い6月25日であったが、7月上旬からの高温・多照により生育は回復してきており、現在のところ茎長、茎数とも平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：平年並

事由：8月20日現在では枯凋期に達していない。1株当たり上いも数は平年よりやや少なく、上いも平均一個重がやや重いため、上いも重は平年並みである。でん粉価も平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

9月20日作況：平年並

事由：枯凋期は平年より5日遅い8月26日であった。枯凋期における1株当たり上いも数は平年よりやや少なく、上いも平均一個重がやや重いため、上いも重は平年並となり、中以上いも重は平年よりやや多くなった。でん粉価は平年並であった。中心空洞等の内部障害の発生は少なかった。

以上により、本年の作況は平年並である。

項目 \ 年次	品種名	男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.24	4.29	△ 5
萌芽期	(月.日)	5.30	5.22	8
開花始	(月.日)	6.25	6.21	4
枯凋期	(月.日)	8.26	8.21	5
茎長	6月20日	29.5	34.8	△ 5.3
(cm)	7月20日	48.4	46.8	1.6
茎数	6月20日	4.6	4.6	0.0
(本/株)	7月20日	4.3	4.4	△ 0.1
8月20日における				
上いも数	(個/株)	11.0	11.7	△ 0.7
上いも平均一個重(g)		97	92	5
上いも重	(kg/10a)	4741	4734	8
でん粉価	(%)	14.7	14.6	0.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	11.1	12.2	△ 1.1
上いも平均一個重(g)		100	88	12
上いも重	(kg/10a)	4911	4751	160
中以上いも重(kg/10a)		4407	3976	431
でん粉価	(%)	14.6	14.7	△ 0.1
上いも重平年対比 (%)		103	100	3
中以上いも重 " (%)		111	100	11
でん粉価 " (%)		99	100	△ 1

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最凶)、19年(最豊)を除く5か年平均。  
「上いも」は20g/個以上、「中以上いも」は60g/個以上